別紙様式１

平成２９年度　学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	☑共同研究推進　□若手教員研究支援　□個人研究支援 □研究推進重点設備　□研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	教員養成課程におけるコミュニケーション能力育成のための教育実践プログラム開発――演劇的手法による「声」のアクティビティに基づいて――
報告者氏名・所属・職名	齊藤貴文・附属釧路中学校・教諭
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	齊藤貴文・附属釧路中学校・教諭（代表者） 川島裕子・旭川校・特任研究員 中西紗織・釧路校・准教授

研究内容及び成果の概要

本研究では、演劇的手法の「声」に焦点をあて、コミュニケーション教育における「声」の力や役割、重要性を捉え直し、本学教員養成課程において「コミュニケーション実践」の授業で行ってきた「声」のアクティビティの再構築を行いながら、関係性・創造性・身体性・協働・表現などの視点からコミュニケーション能力育成のための教育実践プログラムの開発を目指した。なおここでは、声そのものの概念におさまりきれない、表現する声・コミュニケートする声・関係性において作用する声というような意味で「声」と表記する。

主に、本学の教員養成課程において開講されている「コミュニケーション実践」（集中講義）を教育実践プログラム開発の大きな柱として、文献研究や実践の理論化によって、演劇的手法によるコミュニケーション能力育成のための理論的枠組みの構築を試みた。その理論的枠組みに照らして、「声」のアクティビティを捉え分析しその効果や意味を検討し、コミュニケーション能力育成のための教育実践プログラム開発の方向性を探った。その結果、今回は以下の成果を得た。

①「コミュニケーション実践」を指導または受講した、学生と教師が交流することで、「声」・関係性・自己理解・他者理解・ステレオタイプ・学びの場などに関する議論が活発に行われ、コミュニケーション能力とは何かということの再認識や新たな気づきが導かれた。

②「コミュニケーション実践」の授業分析を通して、「声」とコミュニケーションに関する問題や課題について受講生各自がそれぞれの理解を深め、自己と他者相互の関係性の中で「声」が生まれ変わるプロセスを体験したり、「声」の多様性への認識を高めたりすることができることがわかった。

③「声」のアクティビティの特徴・目的・意味の再検討を通して、より効果的なアクティビティの方法や内容が提案された。

④表現・教育・創造性・コミュニケーション・演劇的手法などに関わる講座及びワークショップを担当者（授業者）が自ら受講することで、研究テーマに関する問題や課題について再検討、再認識することができた。

⑤ ①～④を通して、コミュニケーション能力育成のための教育実践プログラム開発のための指針を得た。また、「声」とコミュニケーションの実践プロセスから導かれる理論構築という方向性も見出すことができた。　今後も研究を継続していく。

成果の公表の状況

【学術論文】

・中西紗織「世阿弥の伝書に見える『声』に関する一考察（4）――『曲付次第』第七条における『息』の問題」『釧路論集：北海道教育大学釧路校研究紀要』第49号，2017年6月投稿（2018年3月発行予定）。

・川島裕子・中西紗織「教師の『声』の教育実践――演劇的手法によるコミュニケーション教育の一環として――」『北海道教育大学紀要（教育科学編）』，2018年3月投稿予定。

・中西紗織・川島裕子「演劇的手法に基づく『声』のアクティビティ（仮）」『北海道教育大学紀要（教育科学編）』，2018年9月投稿予定。

教育現場で活用可能な分野・教材等

本研究の成果は、教師または教師を目指す学生の「声」のコミュニケーション実践に関する指導力・実践力向上のために利用可能である。また、教科という枠組みに限らず、声・言葉・表現・コミュニケーション等に関わる幅広い学びを展望する教材開発のために利用可能である。	
配布又はダウンロード可能な資料	
問合わせ先	研究分担者：中西紗織 電　話： 0154-44-3345 FAX　： 0154-44-3345 mail　：nakanishi.saori@k.hokkyodai.ac.jp